

## 第6回「内航船の日」

# SNS が生んだ記念日

～ 社会の応援受け発展する産業に ～

全日本内航船員の会 事務局



SNSから誕生した記念日「内航船の日」（7月15日）には、毎年多くの人々がツイッターのハッシュタグ「#内航船の日」を使って盛り上がります。

日頃から内航船の写真を撮りためている船好きの人や、離島で暮らして日常の感謝を伝えたい人、メーカーなどで貿易業務に携わっている人、船旅のマニア、船員が発信するツイートを楽しみにしている人など、陸の様々な人が内航海運をイメージする日となっています。

なんと、最近では一時的にトレンド欄に浮上することだってあるのです。いつしか、記念日当日には「内航船の日おめでとう」とメッセージが溢れるようになり、普段内航船や海と接する機会のない人たちも、この記念日が海上の船員たちを応援する想いで広がっていることを知ることとなりました。

記念日「内航船の日」は今年で6回目（日本記念日協会の認定から）。初めに記念日を提唱したのは芸術家の谷川夏樹さんでした。絵本『かもつせんのいちにち』を描くための取材で乗船するうちに、内航船はもっと社会的に知られるべき仕事だと残念に思い、SNSに「7月15日を内航船の日と呼びませんか。715、ナナイチゴ、ナイコ、ナイコウ」と呼びかけたのが始まりです。

そこから陸で拡がっていった好奇心は「内航船」という言葉を知らなかった一般の人まで巻き込んでいきました。特徴的なのは、記念日を通じて「海上物流」を意識した次には「島国」を意識し、「航路」、「地域」、「物資」、「加工製品」、そして個々人の「社会生活」にまでつながっていったことです。

Twitter（ツイッター）の中身の等身大の船員の姿を知るうちに「船員不足問題」や「内航問題」、「カボタージュ問題」までも理解する人が出てきています。

私は、第1回目の「内航船の日」から都内(墨田区)の銭湯で「海から届ける写真展@大黒湯」を開催しています。海上の船員たちから自慢の風景画像を送ってもらい、そのプリントをロビーで展示するのです。ここでも全く海運と縁のない人たちが、初めて「内航船」という言葉を知ることになります。まさに老若男女が展示写真に見入り、見たことがない様々な表情の海を体感します。海から見える町を見ます。そして、船員に届けるメッセージノートに「頑張っ！」と書き込みます。

写真展の回を重ねるうちに、私自身も多くのことを知りました。初めは、会場の誰しもが真剣に船員たちの撮影した「海」を眺めている様子に、不思議な感じがしていました。「どこかに共通項があると思えない」。そして気が付いたのです。どんな人の心の中にもそれぞれの「海」がある。その個々人のイメージの海は、船員の現実の「海」とつながっていました。それが島国の住民だからなのかどうかはわかりませんが。

長い間、海事思想の普及を叫んできたのは海運関係者など海側の人間でした。しかし、その理念を「社会性」を持ってイメージで膨らますことが得意なのは陸側の人たちなのでした。しかも、そこでイメージされる「海」の世界は、私たち海事関係者の想像を超えて遥かに美しく、安心できると感じます。なぜなら、そこにはまず市民社会からの熱烈な応援とともに発展していく海運産業の姿があるからです。

### 《SDGs と内航海運産業の未来》

市民社会からの支持と応援を得られなければ、どんな産業でも発展を望むことはできない。それは現代においても確かな事実ですが、この先、そういった市民社会と産業との関係性や企業価値の基準は、よりはっきりと見えてくることになります。

産業の発展に重要となってくるSDGs(持続可能な開発目標)。ここで示される17の項目も、私たちが個々人としては普遍的と思える価値ばかりの課題が並びます。

貧困、飢餓、健康、教育、ジェンダー平等、安全な水、クリーンなエネルギー、働きがい、産業の技術革新の基盤、あらゆる平等、住居、消費と生産の責任、気候変動対策、海を守る、陸も守る、全ての人に司法へのアクセス、目的達成のパートナーシップ。

人類が元々持っている世界共通の「社会性」を改めて確認していくことが、グローバルにつながり合う産業や国家が発展していく上での必須条件になっていきます。特に物流のような「国際情勢から個々人の生活までを貫いている産業」では、その意識の広がりや市民生活に近い末端部分にまで及ぶことで成功するのでしょうか。

物事を多面的に捉え、そこから生み出される価値観を再構築していくことは、企業にとってはもともと実践してきたものです。そのバランスを再考してみる時に、SDGsで示された課題が、より高度な産業発展を求めていく上で欠かせない材料になってきているということです。

島国の市民生活を支えている内航海運業としては、「島国社会に必要な産業であることを実業の面で立証していく」、「実業で結果を出す」ことは変わらず重要なことです。同時に、産業として「市民社会からの応援」とつながれる準備が非常に重要になってきているはずです。

記念日「内航船の日」は、SDGsが人類の普遍的な「社会性」に産業発展を求めていくのと同じように、人々が個々人で持っているイメージの「海」を頼りに産業の発展を

求めています。まだ誰も見たことがない「より良い世界」をイメージする人々の「社会性」を信じて、記念日「内航船の日」はSDGsの時代の真っ只中にいます。

是非、7月15日には海事関係者もみんなでツイッターのハッシュタグ「#内航船の日」を盛り上げてください。

### 《 今年「記念手ぬぐい展」をこっそり開催 》

今年の写真展は新型コロナの感染拡大防止のため中止です。

事務局を置いている墨田区の元気を少しでも励ましたい。近隣で暮らす方々に向けて、銭湯で「内航船の日 記念手ぬぐい展」を静かに開催しています。日常の銭湯の時間に、ちょっとした「非日常」と夏の「海風」をお送りします。（了

